

## 要 点 録

会議の名称 第6回田村駅周辺整備基本構想推進会議

開催日時 平成30年4月17日(火)午後1時30分～午後2時40分

### 出席者

仁連 孝昭	滋賀県立大学 名誉教授
辻村 忠嗣	田村町まちづくり委員会 委員長
川崎 他家廣	長浜地方卸売市場株式会社 代表取締役
若林 浩文	長浜バイオ大学 理事長
伊藤 寿彦	六荘地域づくり協議会 総務部長
小八木 一男	田村町自治会 自治会長
金子 剛士	一般社団法人長浜青年会議所 新湖北グラントデザイン確立委員会 委員長

### 欠席者

井 経子	社会福祉法人石龍会 チャイルドハウス 園長
畑下 嘉之	社会福祉法人青祥会 理事長
西寫 照毅	滋賀県長浜土木事務所 所長
松本 秀章	滋賀文教短期大学 副学長

(敬称略)

### 事務局(長浜市)

長浜市都市建設部：山田部長 井上技監 下司次長

長浜市都市建設部都市計画課：嶋田課長

長浜市都市建設部都市計画課田村駅周辺整備室：塚田室長 三浦主幹 和田主査

### 会議概要

- 1 開会の辞  
会議を公開とすることについて報告
- 2 あいさつ  
長浜市 藤井市長
- 3 第5回推進会議の結果について  
第5回要点録で結果を報告する。
- 4 議事  
1) 田村駅周辺整備基本計画(案)について  
－ 事務局から説明 －

## 2) 主な質疑、意見等 (○ : アドバイザー、・ : 参加者、→ : 事務局)

### <イメージについて>

○イメージについて、車を主とした動線のイメージになっているため、基本計画に合わないものになっている。歩行者や自転車等のアクセスが分かるものを示してほしい。  
→ハードな部分ばかりを表したものに仕上がっているので、歩行者や自転車の通行について分かるものをまとめていきたい。

### <琵琶湖と田村山のつながりについて>

・コンセプトに「琵琶湖と田村山を結ぶ 長浜の南玄関」とあるが、琵琶湖と田村山がどう結ばれるのか、どうまちづくりに生かしていくのかが重要である。田村山は生物多様性に富んだ場所であり、遊歩道等を整備して憩いの場・学習の場として活用していき、それが再開発と結びつくというようなイメージであればより良いと思う。イメージを見ると駅周辺ばかりが見えるが、もっと向こうの田村山から考えた駅周辺の整備というイメージが湧くものが望ましい。

→基本計画は、おおむね 10 年間の中短期の事業を明示している。田村山の整備や琵琶湖と田村山をつなぐという部分は、30 年先を見越した長期のものであり、今回のイメージには反映されていない。田村山の整備については基本構想に入っており、長期的な検討を踏まえ、今後 5 年ごとに見直していく中で事業スケジュールの調整をしていきたい。

・田村山は非常に植生が多いので、それらを整備し保護・観察するような条例もあればと思う。学生が保護し観察するような活動を通じて、大学として地域づくりに協力することも出来る。

→基本構想の中で田村山は風致エリアと位置付けており、地域のランドマークとなる場所である。基本構想に基づき整備を進めていきたい。

また、今すぐ取り掛かれるような事業もあると思う。バイオ大学の学生さんや、地元も含めて、出来ることからやっていくことで駅舎の改築と並行した魅力づくりをしていきたい。コンセプトとして琵琶湖と田村山がどうつながるのかという話が出たが、間にあるものは田村駅であり、まちであり、バイオ大学である。線路で分断されている東西が自由通路でつながり、エリアマネジメントによって東西をつなげる取組みが生まれてくると、結果として琵琶湖と田村山がつながることをコンセプトとしてうたっている。

・このコンセプトは非常によいと思う。文章よりイメージの方が記憶に残るので、イメージからも文章が伝わってくるようなものを作り上げてほしい。

### <都市計画道路について>

・基本計画 P. 27 の都市計画道路の整備では、田村駅から北側の田んぼを通り、東側に向けてカーブする道路計画となっている。基本計画は田村駅と田村山を結ぶエリアの開発ではあるが、周辺の自治会と連携をとりながらまちの人口流出のダム化を図っていくには、ここに手をつける必要があるというのが私の考えである。そのため、田村町だけで

なく、寺田町、高橋町を含めた開発を視野に入れておく必要がある。したがって、残地が不整形となるようなRの道路については出来れば再検討を今後お願いしたい。

→道路整備の事業についても、今後内部で検討し報告させていただく。

都市計画道路の性格としては、道路は将来にわたって土地所有者に一定の制限をかけるものにもなる。一方で、整備を進める上で補助を活用するためには道の形を描く必要がある。現時点で全てが決まるわけではなく、将来まちが変わっていけばそれに応じた道路を整備していくことになる。住民の方のご理解を頂いて進めていきたい。

- ・「田村駅周辺だけでなく、バイパスから高橋町までの田園を含めて計画しては。」という意見が以前にもあった。5年、10年先であれば基本構想の内容で良いと思うが、その先を考えると道路が曲がっているのは不便だという思いがある。市場は将来的な移転はやむを得ないと考えており、市場を含めた田園風景を将来的にどうするかという大きな絵を描いて、「5年、10年先はこの一部です」という構想にさせていただければよいと思う。
- 第2回推進会議で仁連アドバイザーから提示いただいた田村駅を中心とするまちづくり長期ビジョン（仁連アドバイザー（案））では、広く見ていただいたかと思う。今回のイメージはその中から直近の10年を考えたものとなっているが、将来を見据えた大きな絵も考え、皆様からのご意見を頂きながら進めていきたい。

## 5 その他

### 1) 今後のスケジュールについて

－ 事務局から説明 －

### 2) 主な質疑、意見等（○：アドバイザー、・：参加者、→：事務局）

<今後の取組について>

- ・田村駅についてはJRとの交渉が非常に大きなウェイトを占めており、田村駅舎の改築に向けJRとの交渉を精力的に進めていただきたい。また、5年先、駅周辺が新しいコンセプトとして動いてくる際の住民の方への説明を慎重にしていきたい。

一方で、米原駅に商業施設を持ってくるという話がある。田村駅には自由空間を取り入れるなど、米原と切り分けしたかたちで共存していければと思う。先ほどお話のあった、30年先のグランドデザインの中の5年、10年であるという考えで進めてほしい。

→駅舎の改築は、不確定の要素はあるもののH34年度末を目指してJRと協議を進めていく。駅が田村山と琵琶湖の間にあり、大学が二つあるというのは米原駅には無い点である。地域のポテンシャルを生かし、米原駅と田村駅で取り合うのではなく、それぞれの魅力を生かしたまちづくりに取り組んでいきたい。

- ・住む人にとっては米原市、長浜市という区分は関係ない。お互い協力し、湖北のまちの中で米原と田村でwin-winの関係になればよいと思う。

→湖北の魅力を発信していくことで、この地域の人口増加につながると思う。

○これで計画ができて今後進めていく方向性が共通に確認できたと思う。基になる事業が駅舎の改築になるが、個別を進めていくと同時に他事業と調整し、うまく進めていくことが大事である。

協議会ではこの1年間、計画について議論してきたが、これからは、まさに、推進に

ついて議論していく場にする必要があると考えている。

駅舎については、市とJRが緊密な連携をとりながら、計画を煮詰めていくことが必要で、長期ビジョンをはっきりと見据え5～10年先に何を実現するのかというところを大事にしていくことが、非常に重要だと思っている。

エリアマネジメントの仕組みが動きはじめつつある。民間も行政も田村駅周辺に立地している企業や大学も一緒になって、まちづくりをしていかなければならない。これまでにない、まったく新しい非常に挑戦的なまちづくりの形式になる。

行政として体制づくりをしていただいたので、地元を含めて盛り上げていきたいと思っている。

以上